

授業科目名/Course Title	社会課題とNPO・NGO		
担当者名/Instructor	土屋真美子		
授業コード/Registration Code	102101901	開講年度学期/Academic Year, Semester	2024年度前期
開講期・授業区分/Class Category	週間授業	単位数/Credits	2.0単位
年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年	ナンバリング/Course Numbering	FER-A1-5-1-01-1
授業の概要/Course Summary	<p>社会は多様な課題に満ちている。世界を見てみると紛争が起きない日はなく、2年前にはじまった戦争が終わらないうちに、次の戦争もはじまった。一方、地震で年が明けたように、日本は災害が非常に多い。紛争や災害で最初に犠牲になるのは、いつも弱者である。一応の終息を見たコロナ下でも、非正規雇用者、シングルマザー、子どもなど、社会の弱いところにしわ寄せが現れた。</p> <p>また、日本社会は人権では後進国である。特に、女性を取り巻く環境は厳しい。女性の活躍指数では最下位に近く、未だに夫婦別姓すら認められない。ジェンダーやLGBTQ等の課題は、折に触れ社会問題となり噴出する。</p> <p>それらの社会課題に取り組む市民の思いを力にする目的で、制度化されたのが非営利活動促進法人（通称 NPO）である。NPOやNGOは課題に気づいた市民が集まり、解決に向けて取り組むための仕組みである。法律に縛られることなく、営利を追求しないので、スピード感をもって、相手に寄り添った事業ができる。</p> <p>NPO法ができて20年を超え、NPOやNGOという名称も一定の市民権を得ている。その一方で、実態についてはさほど知られていない。また、環境問題や人権についての考え方が変化し、社会課題解決の担い手はNPOだけでなく、マルチセクターの役割になりつつある。</p> <p>そこで、この授業では、NPOについての基礎知識を共有するとともに、NPOは何のために、何を指して活動しているのかを学ぶ。SDGsなどの進展で、企業の役割も大きくなってきているので、どう多様なセクターと連携して社会課題を解決しようとしているのかも共有したい。具体的な活動については、できるだけ現場感をもって、社会課題の解決の仕方を伝えるために、NPOのスタッフをゲストとしてお招きし、議論する場を設ける。NPOやNGOはどうやって社会課題に気づき、自ら動き、共感する人を増やし、活動を展開させていくかを学ぶ。</p> <p>NPOやNGOについての知識を得ることが目的ではなく、自分自身で課題に気づき、考え、課題を解決するためには何をすればいいのか、行動するきっかけを掴んでもらえればと思っています。</p> <p>実務経験のある教員等による授業科目」対象科目</p>		
授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>アクティブラーニングが基本。議論とグループワークを中心にする。授業の中では必ず、グループで話し合い、自分たちの意見をまとめる、という機会を設ける。</p> <p>また、実際の現場の活動内容を共有するために、課題解決に取り組むゲストをお招きし、現場に即した議論を行う。招へいするゲストは、受講生の希望で決定する。</p> <p>希望者には、オプションで、現場での活動も体験する機会を設ける。</p>		
授業の方法（アクティブ・ラーニングの種別）/Type of Active Learning	C. ディスカッション、ディベート/D. グループワーク/E. プレゼンテーション		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	<p>毎回ミニテーマを出し、各自で考えてもらい、グループワークを行います。宿題は発表する機会を設け、その評価はお返しします。また、ゲストを招へいするときには、学生からインタビュアーを選び、ディスカッション形式で行います。</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	JWU社会連携科目DP		
授業の到達目標/Course Goals	<p>社会課題を解決するためには、まず課題に気づく力が必要で、次に共感してくれる人を集め、アクションを起こす。そして人の集まりを組織にし、運営し、さらに多くの人たちに情報発信して、世論をつくっていくことが求められる。</p> <p>そこで、この授業では、受講生が以下の力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に気づく力や共感力を身に付けることができる</li> <li>・ 課題解決のための事業を立ち上げ方を知ることができる</li> <li>・ グループワークを通じて、受講者がコミュニケーション能力を高めることができる</li> <li>・ 多様な変化にも適応できるような力を身につけることができる</li> <li>・ 社会変革の担い手は自分であるという意識を身に付けることができる</li> </ul>		
授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>表題講義の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：この授業に期待していること、受講生のこれまでの経験等を出し合います。この結果は授業計画に反映します。</li> <li>2 社会課題とは何か？：今、気になっていること、課題だと考えることを出し合います。</li> <li>3 NPO/NGOの意味：ボランティアとNPO/NGOの関係、NPO/NGOという組織についての説明</li> <li>4 NPO、NGOが生まれてきた背景：現代社会でNPOとNGOが生まれてきた歴史の意味を共有します。</li> <li>5 NPO、NGOの役割：NPO法の設立の経緯、現在、NPOが社会の中で担っている役割、企業や行政との違いを学びます。</li> <li>6 社会課題とNPO、NGO：現在の社会課題に対して、どうNPO、NGOは取り組んでいるかを学びます。</li> <li>7 具体的なNPO/NGO活動の紹介①オリエンテーションでの希望を反映し、現場のNPOを紹介しします。</li> <li>8 具体的なNPO/NGO活動の紹介②ゲストスピーカーによる活動紹介。</li> <li>9 具体的なNPO/NGO活動の紹介③ゲストスピーカーによる活動紹介。</li> <li>10 社会課題を解決するためのルール：ESGなどを紹介し、そうしたルールが社会に与える影響を学びます。</li> </ol>		

	<p>11事業の力で課題を解決するには：具体的なソーシャルビジネス、ソーシャルアントレプレナーなどの動きを学びます。</p> <p>12多様なセクターとの連携：企業のCSR活動とNPOはどうパートナーシップを組んでいるのか、を学びます。</p> <p>13ワークショップ：NPOをつくるとしたら、の事業計画作り</p> <p>14成果発表とコメント：成果発表と授業全体の振り返り、まとめを行います。</p>
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業
授業形態の種類（詳細）※必ずmanabaも確認すること。	基本的には対面授業の予定です。一度はボランティア体験をしてもらいたいので、希望者には課外活動も行う予定です。
成績評価の方法/Methods of Evaluation	試験の代わりに、自分がつくりたいNPOについてのプレゼンテーションを行います。それについては外部の専門家による評価も行います。ただ、そのプレゼンだけで評価するのではなく、出席状況やグループワークでの発表の状況等で総合的に評価します。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	毎回ではありませんが、課題を出しますので、事前にネット等で調べ回答を書くという準備が必要になります。1時間程度の準備は必要です。 授業のあとは、自分が関心のあるテーマを模索してほしいと思います。これらの学修に60時間以上を要します。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 <a href="https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf">https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf</a>
使用テキスト/Text to be used	特にありません。テーマごとに、読むと良い書籍を紹介します。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	特にありません。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 <a href="https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf">https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</a> 大学院 <a href="https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf">https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</a>
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	<p>2024年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。</p> <p>対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた双方向型遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。（教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。）</p> <p>※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	<a href="https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf">https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf</a>